

【5-1-a】

伝統的町家における居住環境改善のための改造実態 -新潟県村上市町人町地区を対象として-

THE ACTUAL CONDITION OF RECONSTRUCTION IMPROVING LIVING SPACE IN TOWNHOUSE

-A case of historic district in Murakami-city, Niigata Prefecture-

正会員 ○鈴木香織*, 岡崎篤行**

kaori SUZUKI, and Astuyuki OKAZAKI

本研究は新潟県村上市町人町地区を対象とし、既往調査(財団法人日本ナショナルトラスト平成14年度観光資源保護調査『村上の町家と町並み景観』)にて詳細調査が行われた伝統的町家61件の改造状況を、伝統的要素に着目して分析している。以上のことが明らかになった。町家では①ガイドコロの水廻り部分に改造が集中している。②チャノマとその脇のトオリドマは間取りが保たれる傾向がある。③間口4間未満の小規模な町家では伝統的要素が残されにくい傾向がある。

Keywords: Murakami City, Townhouse, reform, traditional factor, living space

村上市, 町家, 改造, 伝統的要素, 居住環境

1. 研究の背景と目的

全国的に歴史的資源を活かしたまちづくりが活性化しており、地域固有の歴史的町並みの保全が進んでいる。新潟県村上市もまた、城下町特有の歴史的町並みを活かした活性化を図っている。村上の中心部である町人町地区には、歴史的建造物である町家が現存しているが、これらの多くは長年住み続けられる間に何らかの改造^{注1)}が行われており、その際に町家の伝統的要素が失われている恐れがある。

歴史的町並みを活かしたまちづくりを行う際には、その地域特有の要素や特徴を継承することが重要であり、町家内部もまた同様に地域特有の伝統的要素を活かしながら居住環境の改善を図る必要がある。

そこで本研究では、既往調査^{注2)}の報告書内より、建物詳細調査^{注3)}が行われた歴史的建造物の中から料亭などを除いた、町家建築(和風及び洋風建築を含む)61件を対象とし、伝統的町家における居住環境改善のための改造実態及び、伝統的要素の残存状況を明らかにすることを目的とする。

2. 対象の概要

2-1. 間取りの特徴

村上の伝統的な町家はトオリドマを有し、通り側から「ミセ-チャノマ-イマ(ザシキ)・ガイドコロ」と並び、多くは中庭がある。トオリドマとチャノマ、ガイドコロの上部は吹抜けている。トオリドマ・チャノマの吹抜けは村上町家の重要な伝統的要素である。

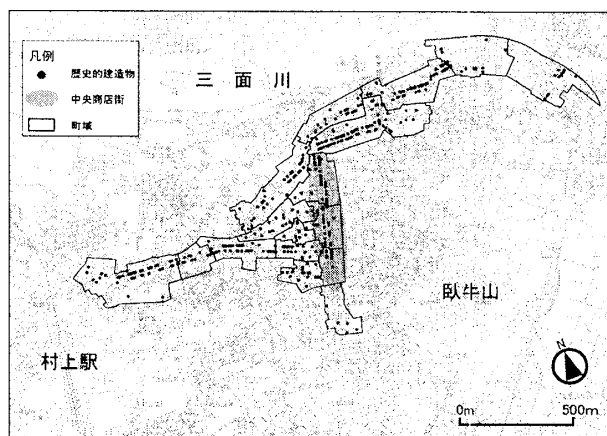


図1 歴史的建造物の分布状況(参考文献1)より)

* 株式会社渡部工業勤務

** 新潟大学工学部建設学科 助教授・博士(工学)

Watanabe Industrial Co., Ltd,

Assoc. Prof., Dept. of Civil Eng. and Arch., Faculty of Eng., Niigata Univ., Dr. Eng.

2-2. 形態・間口の特徴

「ミセ-チャノマ-イマ」の並びがドマに沿って1列の場合は1列型、2列の場合は2列型としている。1列型の多くは間口が4間未満で2列型は全て4間以上である。村上では間口4間未満の1列3段(ミセ-チャノマ-イマ)の町家が典型である。

3. 改造状況

町家の改造状況を、場所ごとの改造の有無と行為内容を整理し表3に表す。改造が多く見られるのはミセ、チャノマ、ドマ及びダイドコロ裏で、ダイドコロ裏は改築や増築などにより、既存建物より拡大している場合が多いためダイドコロ裏と表現した。①ミセ 小規模な改修か用途のみの変化が多い。併用住宅の場合は店舗の改修が主で、拡張や伝統的要素の復元などが目的である。専用住宅はミセの居室化が多い。車庫への用途転換は共通して多く見られた。敷地奥が道路に面していない場合多くはミセ部分に車庫を設ける。その際ファサードもシャッターやガラスのアルミ戸になってしまい、間取りは変化しないが、町並み景観を壊す恐れがある。

②チャノマ 約1/2が吹抜けを塞ぐ改修を行っている(図3)。防寒対策として行う場合がほとんどだが、さらにその上部を収納や部屋として利用する場合もある。他は拡張や階段位置の変更などの小規模な改修なので、平面的な間取りの変化はほとんどない。

③イマ・ザシキ 私的な部屋として利用されることが多いため、建具をいれたり、畳をフローリングに変えるなどの改修が主である。ザシキの拡張は2列型に多く、ザシキ自身を持たない町家も多い。

④ダイドコロ・ドマ ドマ失われ部屋と一体になる場合、ほとんどがダイドコロ脇から床上げされ、チャノマ脇のドマは残される傾向がある(図3)。繰り返しの水廻りを含む改造により間取りが変化が生じやすい。

⑤オモテニカイ・ウラニカイ オモテニカイでは天井高を高くする改修が、建具を入れ細分化する改修は共通して見られたが共にあまり改造されていない。

表1 対象町家の概要

建築年代		形態・間口		用途	
江戸期 (1815~1867)	20件	1列型	32件	住宅専用	29件
明治前期 (1868~1889)	10件				
明治後期 (1890~1911)	10件			4間未満75% 4間以上25%	商店併用
大正期 (1912~1925)	10件	2列型	29件	住宅専用	29件
昭和初期 (1926~1954)	7件				
不明	4件			4間以上100%	その他

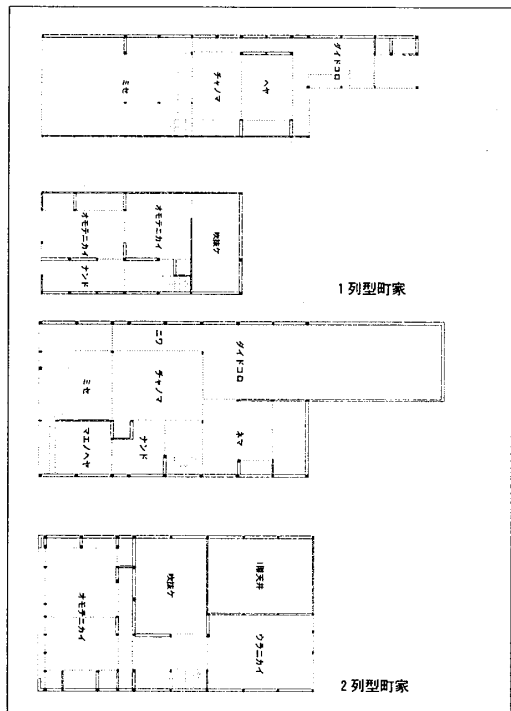


図2 1列型町家と2列型町家の模式図

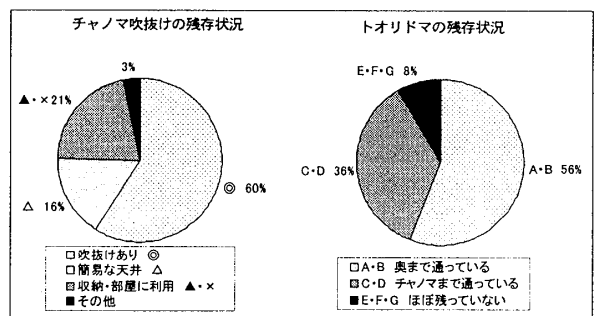


図3 伝統的要素の残存状況

表2 改造箇所と改造行為

改造場所	ミセ					ザシキ	イマ	オモテニカイ	ウラニカイ	チャノマ		ドマ	ダイドコロ	ダイドコロ裏~					隣家買い足し	
	駐車場	改修	拡大	ファサード改修	その他					増改築	増改築			改修	吹抜消失	改修	床上げ	埋め		吹抜消失
件数(件)	19	12	8	4	1	5	10	12	7	23	9	8	23	3	24	28	7	3	11	6
割合(%)	31%	20%	13%	7%	2%	8%	16%	20%	11%	38%	15%	13%	38%	5%	39%	46%	11%	5%	18%	10%

4. 伝統的要素と改造度によるタイプ分類

4-1. 改造度の定義

改造行為には、既存の建物を活かして行えるため改造の度合いが小さい改修と、既存の一部を壊して行うため改造の度合いが大きい改築がある。これらの改造の度合いと改造場所の違いから改造度を定める。改造行為をほぼ改造なし・改修のみ・改修及び改築、改造場所をガイドコロ奥・チャノマ奥・全体で分類し、組み合わせから0～5の6段階で改造度を定める(図2・改造度部分)。0が改造度が最も小さく5が最も大きい。

4-2. 伝統的要素の残存状況

トオリドマはA～Gの7段階、チャノマ吹抜けは4段階で現状を分類し、伝統的要素の残存状況を把握する(図4)。ドマはA・Bは奥まで通っているいて、Bは水廻りが床上げされている状態。C・Dはチャノマ脇まで残っているもの、E・Fはミセ部分のみ残っており、D・Fは床上げされたドマ部分が部屋と一体になっている。Gはドマを全く残さない。チャノマ吹抜けは、◎が吹抜けを残す、△・▲・×は吹抜けを残さなく△が簡易な天井で塞いだのみ、塞いだ部分を収納として利用しているのが▲、部屋として利用しているものが×とする。

4-3. タイプ分類

これまでの改造度の分類と伝統的要素の残存状況からタイプ分類を行い、改造の傾向と問題点を探る。「形ドマ残存状況-改造度-チャノマ吹抜け」で数字・記号を並べ分類する(表3)。

(1)タイプI

タイプIは伝統的要素がよく残ったタイプである。全体の中でも件数が最も多いため、対象の多くは町家の特徴を良く残しているといえる。タイプIの中でも、数を多く占めているのは改造度が0～2のものなので、改造度0～2をタイプI-1、改造度4～5をタイプI-2とした。

項目	数字・記号	件数	詳細
改造度	0	7件	ほぼ改造なし
	1	15件	ガイドコロ奥 改修のみ
	2	24件	ガイドコロ奥 改修及び改築
	3	2件	チャノマ奥 改修のみ
	4	4件	チャノマ奥 改修及び改築
ドマ現存状況	5	9件	全体の改修及び改築
	A	31件	
	B	3件	
	C	4件	
	D	18件	
	E	3件	
	F	1件	
チャノマ吹抜け	G	1件	
	◎	36件	吹抜けアリ
	△	10件	吹抜けナシ 簡易な天井
	▲	13件	吹抜けナシ 収納
	×		
	-	2件	その他

図4 タイプ分類の項目

表3 改造箇所と改造行為

タイプ	ドマ	吹抜	改造度	1列		2列	
				形-ドマ-改造度-吹抜	件数	形-ドマ-改造度-吹抜	件数
I (23件)	I-1	◎	0	1-A-0-◎	1	2-A-0-◎	4
			1	1-A-1-◎	4	2-A-1-◎	4
			2	1-A-2-◎	2	2-A-2-◎	3
			4	1-A-4-◎	1		
			5	1-A-5-◎	1	2-A-5-◎	1
II (11件)	A・B	△	0			2-B-5-△	1
			1	1-A-1-△	1	2-A-1-△	1
			2	1-A-2-△	1	2-B-2-△	1
			0	1-A-0-x	1		
			1			2-A-1-x	1
			2	1-A-2-▲	2		
III (13件)	C・D	◎	1	1-D-1-◎	2	2-C-1-◎	1
			1	1-C-2-◎	1	2-C-2-◎	1
			2	1-D-2-◎	4	2-D-2-◎	3
			2	1-D-2-▲	1	2-D-2-▲	3
IV (6件)	D	△・▲・×	4			2-D-2-x	1
			4	1-D-4-x	1	2-D-2-▲	1
			5	1-D-5-x	1		
			5				
V (5件)	E・F・G	◎	5	1-E-5-◎	1		
			5	1-E-5-△	1		
			5	1-E-5-x	1		
			4	1-F-4-x	1		
			5	1-G-5-▲	1		

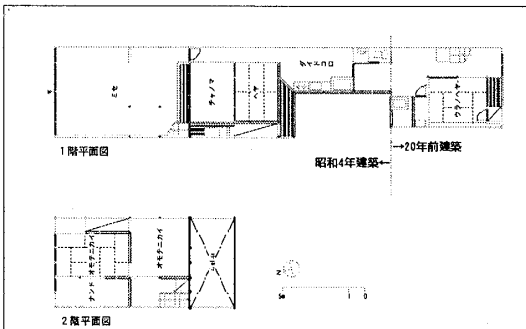


図5 タイプI-1(対象23)

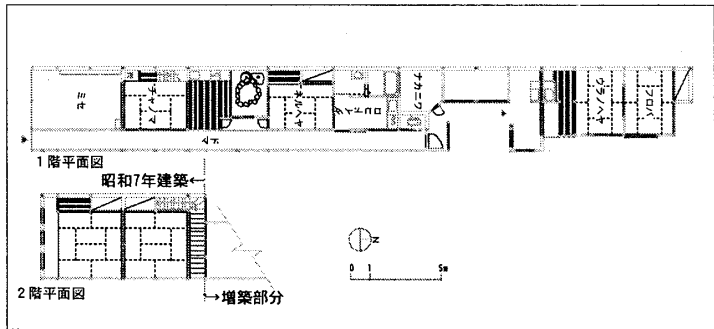


図6 タイプII (対象60)

①タイプⅠ-1 改造がほとんどされていないか、ダイドコロ奥の水廻りを改修・増築など行ったのみであるものが多い(図5)。

②タイプⅠ-2 改造度が4~5であるタイプⅠ-2は、全体的に手が増えられているが、伝統的要素を良く残した例である。件数は少ないが、伝統的要素を残したまま居住環境の完全を図ることが可能であることを示している。

(2)タイプⅡ(図6)

タイプⅡは、ドマは奥まで通っているがチャノマの吹抜けが塞がれている例である。吹抜けを塞ぐものには簡易な天井を張り防寒対策をとるものと、天井上を収納や部屋として利用できるようなものがあるが、やはり1列型のほうが2列型よりも吹抜けを塞ぎスペースとして利用する例が多く見られる。

(3)タイプⅢ(図7)

ドマがチャノマ脇まで残っており、チャノマの吹抜けも残っている例。タイプⅢ内でも件数が多かったのは1列型、2列型共にダイドコロ奥を大きく改造し、チャノマから通り側は伝統的要素を残している例であった。ダイドコロ奥はプライベートな空間なので閉じている空間だが、チャノマの吹抜けとその脇のドマが残っていることで、通り側に対し開けた空間になり町家らしさを保っているといえる。

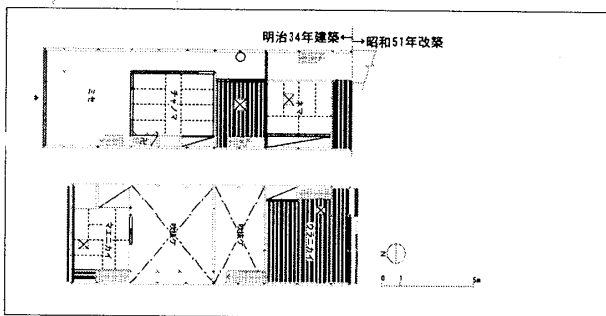


図7 タイプⅢ (対象58)

(4)タイプⅣ(図8)

ドマがチャノマ脇まで残っているが、吹抜けは残っていない例。ダイドコロは全て床上げされ部屋と一体になっている。改造度4、5も見られ全体的に改造が行われている例も見られる。

(5)タイプⅤ(図9)

ミセ部分のみにドマを残すか、ドマを残さない例。ほとんどがミセ部分を駐車スペースとして利用している。このタイプⅤになりはじめてチャノマ脇にドマを残さなくなることから、チャノマ脇のドマは町家の特徴であり生活に必要な要素ではないかと思われる。タイプⅤは全体的に改造が行われているが、「ミセ-チャノマ-イマ」の間取りの特徴を残しているものと、全く残していないものがあり、タイプⅤの全てが伝統的要素や間取りを残そうとしていないとは言えない。

5. まとめ

- 1) 水廻りを含むダイドコロ奥に改造が集中しており、改造度も大きいので間取りの変化が生じやすい。
- 2) チャノマとその脇のドマは改造が少なく元の間取りが保たれる傾向にある。
- 3) 間口4間未満の比較的小規模な町家では、新たなスペースが求められ伝統的要素が残されにくい。

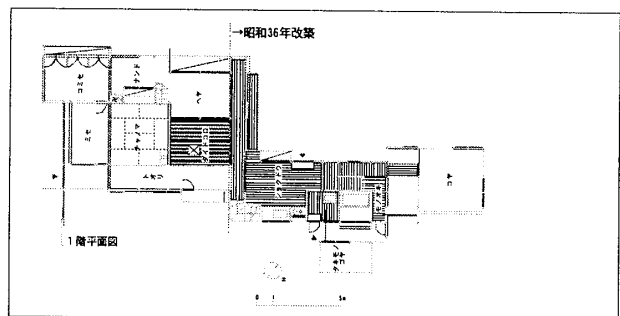


図8 タイプⅣ (対象34)

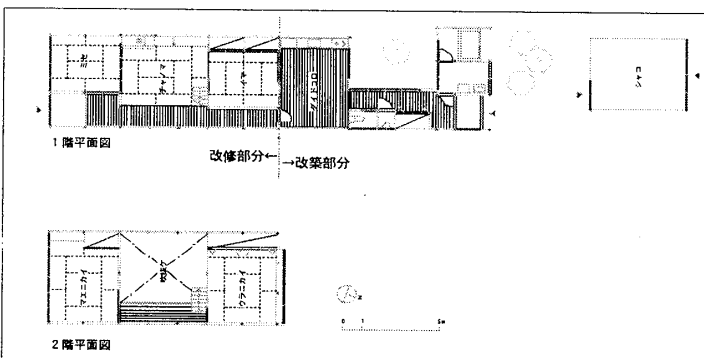


図9 タイプⅣ (対象34)

【補注】

注1) 改造とは、改修・改築・増築・新築等行為の総称を示す。また改修及び改築は建築基準法の定義による。

注2) 参考文献1)では、村上町人町地区の歴史的経緯、町並みの現状と課題、町家の残存状況と特徴について学術調査が行われた。調査は新潟大学工学部建設学科都市計画研究室及び意匠・計画研究室を中心に実施された。

注3) 建物詳細調査では68件の歴史的建造物に対し実測調査及びヒアリング調査が行われた。

【参考文献】

- 1) 財団法人日本ナショナルトラスト
平成14年度観光資源保護調査
『村上の町家と町並み景観』